新春雑感

大川創業株式会社
代表取締役会長　大川　真一郎

明けまして御目出度う御座います。月日の経つのは早いもの。新春雑感を書き始めて５年、阪大オペラをプロデュースして今年で 18 年。新春雑感の冒頭に、今年はどういう年かを書く。四条畷高校の先輩、安岡正篤先生の「干支の活学」によると、今年は丁酉（てい・ゆう、ヒノト・トリ）の年である。

樹木の生長を示す十干の４番目に当る中盤を丁の漢字で表す。前年の丙に次ぐ生長力の逞しさを受け継いでいる。

漢字語源では、丁を「面に対してＴ型の直角に立てた状態」の象形とある。ある一点に直角にささるクギ状を表し、釘の語源となっている。世の中の通義では「さかん」を意味し、働き盛りの壮年と言える。働き盛りの丁年に昔は元服し、兵役に赴いた。今年から、18 歳から選挙権が与えられるようになったが、昨年までは丁年、つまりはたち（廿歳）になると選挙権が与えられた。従って、丁年は最も働き盛り、血気盛んの年と云える。丁の横一を現有勢力とすると、縦１は反対勢力、反政府軍と言えるが、横一の現有勢力を突き抜けていない。干支に十はないが、十となると革命を十分果たしたとなる。

酉の原義は、酒を貯める小口の壷の形で由の異字体とも言われている。さんずい偏を付ければ酒。酒がめに入れた麹が丁度良い具合に蒸れておいしい酒となっている。丁度良い時期に醸造された年と言える。昨年の丙申も、家の中に閉じ籠らずに飛び出せば大いに伸長する年だった。２年続いてこんな良い年は 60 年周期の中で、そうザラにない。このチャンスを活かさぬ手はない。経営、売上げ、新規事業、新製品、新発見、新実験、投資、再開発等に最適の年である。

上記分類には入らないが、私は非常に考えさせられる場面に遭遇した。阪大オペラ・シリーズも昨年で 17 年目。観にきてくれた友人達の中から、これでようやく本格的なオペラになったなと、異口同音に褒められた。

17 年間のオペラ変遷を振り返ってみると、企画会議の席上、工業会会長 鈴木　胖さんにオペラを上演すれば 500 席満杯になりますと提案。「じゃ、やってくれ。」と言われて今年で 18 年目を迎える。私は学生時代、クラリネットに凝り過ぎ、阪大交響楽団ではモーツァルトのクラリネット協奏曲を四年生期に独奏させて貰ったが、それだけでは飽き足りず、西宮交響楽団、大阪市民管弦楽団にも入団、千日前の音楽喫茶「銀馬車」でヴィクター・ヤングのような映画音楽とかリストのハンガリア狂詩曲第２番、オッフェンバックの「天国と地獄」序曲のようなポピュラークラシックを毎晩終電まで演奏したり、馬場町のＪＯＢＫスタジオで明治、大正、昭和のヒットソングを、譜面を渡され２時間練習、そして１時間本番で即オンエアで放送される大阪室内楽団。この楽団では初めての曲を手渡されて、即興で演奏する初見の為にはとても勉強になった。彼女は同じ楽団でヴァイオリンを弾いており、我が人生で最も楽しい一刻であったが、卒業して就職しなければならない。サンヨー電機の昭和 32 年当時の初任給 12,000 円也。何と今の楽団の半分じゃないか。楽しい時間を過ごし、お客に喜ばれて給料倍。初出社の前日まで迷った。後年北村英治さんを招聘し、デュオ・コンサートをした事がある。鈴懸の径、聖者の行進、黒いオルフェ、思い出のサンフランシスコ、枯葉を共演した後、最後はシング・シング・シングで締めくくった。休憩中に何故慶応大学を卒業しながらジャズの道を選ばれたのか聞いてみた。昭和 27 年度 一流企業の初任給は 6,000 円。当時月収はその６倍あったから、迷わずジャズの道を選びましたという返事。入社した頃は労働組合もないから残業は毎日ある。早く帰れる時で１日２時間。殆ど毎日徹夜の検査が続く。電通事件よりひどい。月 50 時間から 150 時間の酷な残業。徹夜と言っても仮眠はするが、毎日彼女と会っていた学生時代と比べ、地獄の毎日。携帯があれば帰れる時間帯を知らせられるが、それもなし。

ついに最愛の彼女を失った。腹いせに十二指腸虫だと称して１週間休んだ。１週間後、私のしていた検査を何と３人でやっているじゃないか。そして入社１年目で主任に抜擢された。私は実務をやらなくなったので、工場を見渡し無駄を省く提案をした。冷蔵庫の冷える入り口部分から、コンプレッサーまで細い銅製の毛細管の入荷が遅れ気味なので、メーカーに行って驚いた。広い運動場にボツになったチューブが折り曲げられ山を築いている。昼休みに遊ぶ場がない。検査室に入ると各社別々の検査方法でやっているので見ていてもどかしい。特にＨ社は水銀圧力計なので、Ｕ字管が静かに収まるのを待っている。これがネックだと決め、当社のボンベから窒素の圧力を入れて、サッと計れば圧力が高過ぎてアウトになったＨ社のチューブは全て当社では合格して使える。運動場に捨てられていたキャピラリーチューブを伸ばして製品化すれば、当社は無料で仕入れる事ができる。入社１年目当時はまだＨ社の１割程度の生産数だった。

冷蔵庫の梱包を木製から段ボールにした時に梱包委員長を命じられた。冷蔵庫の塗装をウォーターカーテン式吹き付け塗装からランズバーク塗装機の静電気塗装にした日本初使用のプロジェクト委員長にも任命された。工場長から「何でも新しい事をやってくれ。君の責任は全てわしが持つ」と言われた事にも意気を感じ、部品のコストダウンにも力を入れた。私の提案した日本最初の２ドア冷蔵庫は売れに売れた。電気の後輩六条敏弘君が私の課に入ってくれたので、実験計画法という統計学を駆使して、同じ値段ならより良い製品を、同じ成分だったら、より安いものを、当社と創業以来の付合いという業者も捨て、品質第一で毎年ベースアップがあるのに我が社の冷蔵庫は逆に安くなる。日本の電気冷蔵庫で７番目にスタートしたわがサンヨー冷蔵庫の日産量が私の入社９年目で日本一となった。入社３年目に係長、５年目に課長代理と異例の抜擢。７年目に品質管理課から、合理化、無人化、量産化の設備を扱う生産技術課に移り、日本電機工業会から功労賞を貰いに上京した。同期の細川正男君、坂本勇君と３人も同年に頂き、いずれも七研（後の山村研究室）というのも嬉しかった。冷蔵庫の扉に絵を印刷したアートドアも他社に先駆け世に出した。アートドアの印刷は騰写版の大型化で紙の代りに絹製、ローラーの代りにヘラ。社員が印刷すると扉が反っているので扉の真中辺しか印刷できない。ベテラン職人を使うと営業からは 800 円しかくれないから、造れば造るほど赤字が続く。窮地に立たされた後のない夜、夢に子供の頃ブランコに乗って遊んでいる姿を見た。これだ。支点を固定せず、扉の反りに合わせるように支点を作るとピッタリと扉に沿い見事にプロ並みに印刷できた。仕事はもう１つだが、写真が趣味の男の為に暗室を作ってやると、新しい版を次々と製作してくれ、売れに売れた。800 円しかくれない赤字だとボヤいていたが、原価はついに 23 円。１枚の扉を売るだけで、 777 円の利益。工場は利益トントン、本社で２％程儲かれば良いのに、何と工場利益が 26％になり、全社ダントツの利益ぶり。お前の責任は俺が取るから新しい事をドンドンやってくれと言ってくれた課長もその頃工場長になっていたが、突然鳥取三洋の常務になったから、お前もついて来い。部署は建築課と電器事業部。冷蔵庫と正反対の暖房器に 180 度転換する。三洋に同期に入社した男が我が技術部に入って来た。給料を見て驚いた。今までボーナスを貰う時、給与辞令を貰う時、いつも少なくて済まんと言われたのに、同期の５割増し頂いていた。若くして管理職になったのと皆のやっている事がもどかしく、よく雷を落とした。不良品続出で呼びつけ怒鳴ったＴ社の課長の年令が父親と同年だった事から、相手を見て叱る事にしたが、サンヨーを辞めて 10 年経って年賀を貰って愕然とした。「この年になってやっと課長は愛情をもって叱ってくれている事が解りました。」つまり、10 年間誤解されていたのか。三洋時代「お前の様な者、辞めてしまえ」と叱っても翌日は出社している。処が、12 年間勤めたサンヨーを辞め、本家の養子になり、衣料スーパー「オオカワ」に入社して「辞めてしまえ」と言えば本当に辞められた。大いに反省し、今では好々爺になっている。私達の子供時代は軍国主義だったので「怒鳴られる、殴られるのは当たり前」の時代を過ごした私に最近ショッキングな出来事があった。

リオのオリンピックでシンクロナイズの井村雅代コーチや、昨年亡くなった蜷川幸雄演出家などの叱り方は有名だ。井村雅代だって銅メダルしか取っていない。金メダルをもらったロシアなんかもっと厳しい練習をしていると言われている。柔道で銀を取った選手の言葉、「これだけ努力したから金を取れると思ったが、未だ努力が足りない事が解った。次の東京に向け、もっと努力したい。」頼もしい限りだ。ショッキングな出来事というのは叱り方でない。教え方だ。

阪大オペラもオーケストラは数人がプロのオーケストラに所属しているが、他は各地域のアマチュアオーケストラで首席奏者クラスが集まっているので自分の所属しているオーケストラよりレベルが高いのは当然である。指揮者ギオルギ・バブアゼさんは練習の時に、このフレーズはこの様に演奏してくれとコンマスのヴァイオリンを借りて演奏して見せるので理解し易い。山本五十六海軍艦長も「やって見せて、言って聞かせて、やらせて見て、褒めてやらねば、人は動かず」式だ。

阪大オペラでは、オーケストラが大変上手くなりプロ級に近づいた。原語で歌うが、字幕が付いたので内容がよく解る。歌手達も当初譜面立ての前に直立不動で、東海林太郎のように歌っていたが、昨年から唐谷裕子演出家の指導を受けた。本番の１週間前の練習で主役２名が楽譜を見て歌っている。合唱はもっとひどい。半数が楽譜を見て歌っている。ところが、唐谷先生が指導する度に笑いの渦。ふざけるな。笑っている時間があれば一言でも覚えよ。叱りたくなったが、さて本番となると、誰一人譜面を持って歌っている歌手は１人もいない。ニコニコしながら動作も上手だ。本格的オペラと褒められるのもお世辞でない。たった１週間で２時間のオペラをイタリア語で歌い上げた。お見事。スーパーラーニングはお笑いで。東京オリンピックで体操、重量挙げ、シンクロ等を、叱る事から逆に笑いで指導すればどうなるか。アメリカは抜群のメダルを取ったが、やはりスパルタ式なのかスマイル式かどちらだろうか。興味深い。

（電気　昭和 32 年卒）